

熱傷（やけど）の症状と応急処置

令和6年12月11日

宮崎江南病院 形成外科病棟 看護師

やけど（熱傷）とは？

皮膚に高温が作用した為に起こる傷害。高温の液体や固体が一定時間以上接すると生じる。

- ・ 熱湯や高温の油をかぶってしまう
- ・ アイロンやストーブに当たってしまう
- ・ 熱いお風呂に誤って落ちてしまう



やけど

やけどの原因（具体例）

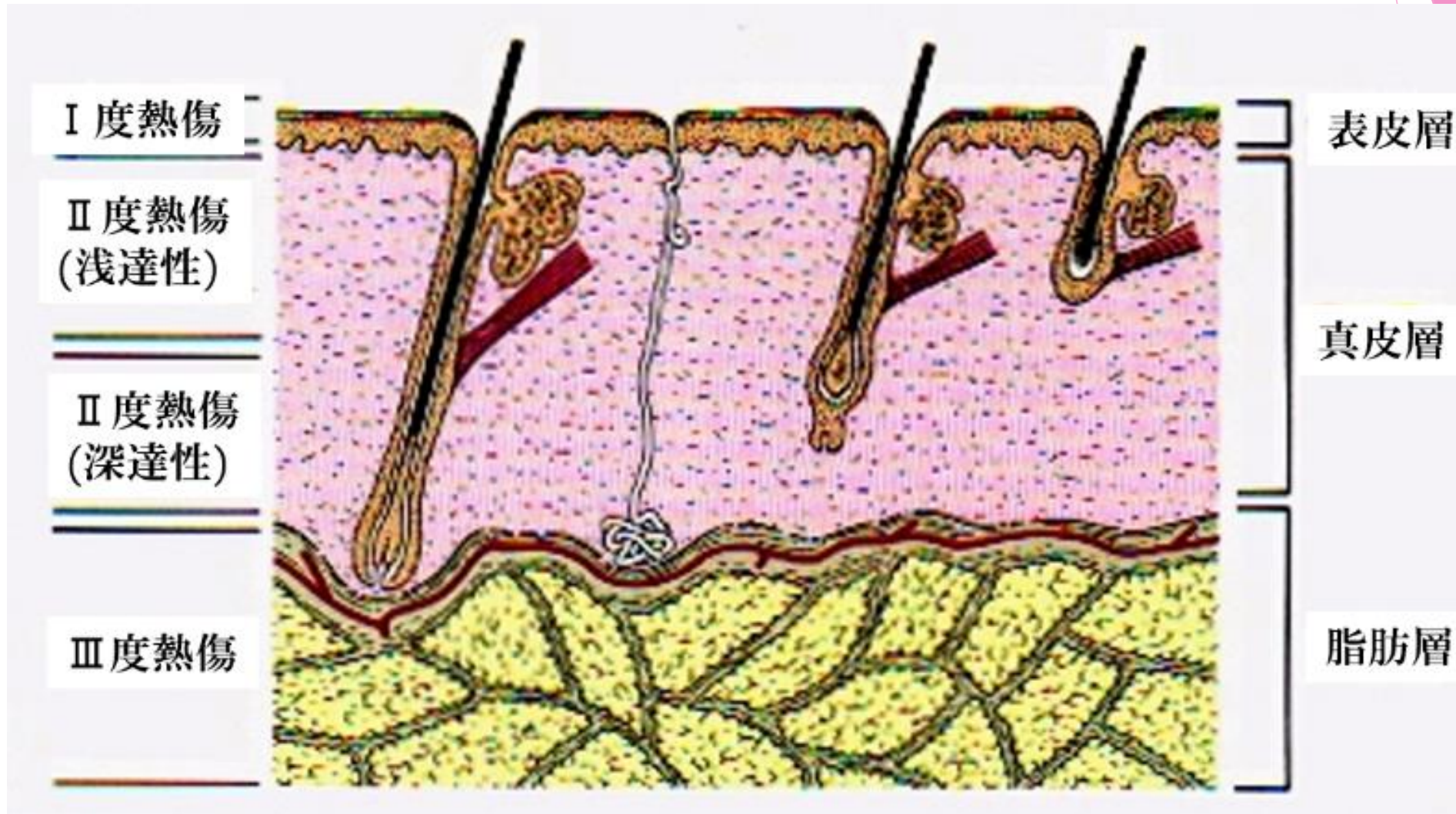
夏 日焼け



冬 低温やけど



やけど（熱傷）の深さ



やけどの症状

< I 度熱傷 >

表皮のみが傷ついている場合。

発赤（皮膚が赤くなる）や腫脹（腫れ）がみられ、ヒリヒリとした灼熱感や痛みがある。

一時的に傷跡が残ってしまうこともあるが、数日で自然に治り、やけどの跡が残らない。



やけどの症状

Ⅱ度熱傷、2種類あります！

せんたつせい
＜浅達性Ⅱ度熱傷＞

きていそう
表皮基底層（真皮上層）までの損傷。
症状として、発赤・浮腫性腫脹・水ぶくれが見られる。
水疱が破れてただれを起こし、痛みや熱さが強く生じます。

しんたつせい
＜深達性Ⅱ度熱傷＞
真皮深層までの損傷。
発赤・水ぶくれ・びらん・浅い潰瘍などが生じるが、
痛み自体は軽い。水ぶくれの下が皮膚が白くなります。



やけどの症状

＜Ⅲ度熱傷＞

皮下組織（皮膚の深いところ）までの損傷。
痛みを感じる神経も損傷しており、痛みを感じ辛い。
肌の表面が壊死している場合もある。
傷ついた表面は白く乾燥しており、酷い場合は
焦げている。皮膚が引っ張られる感覚や、機能障害が
起こる場合がある。



もし、やけどをしたら・・・

すぐに冷やす（やけどした部位を冷却する）ことが大切！！

15～30分程度冷却すると効果あり！

冷やすことで、やけどの進行を止め、痛みを抑えることが出来ます。
温度は15度程度が良いとされています。氷や保冷剤は皮膚損傷に繋がるため使用しない。

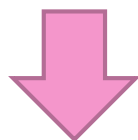
冷却する際に、衣服は**脱がないようにする**

- 無理に脱ぐと水ぶくれが割れて痛みが強くなってしまう。
- 水ぶくれが破れると感染の原因になります。



低温やけどについて

湯たんぽや使い捨てカイロなどに
長時間接触することで起きる



低温やけどはダメージを深く受けているにもかかわらず、通常のやけどに比べて見た目が軽く見えてしまい、気付かないで過ごしてしまうことが多い。



低温やけどを放置していると・・・？

水ぶくれが出来る等、
徐々に症状が進行していく。

自覚した頃には既にかなり進行している
場合が多い！
発見が遅れると治療が長引いたり、手術が
必要になる場合があります。



受診のタイミング

- ①やけどの範囲が広い場合
(やけどをした本人の手のひらよりも大きい場合)

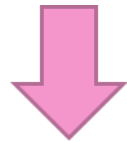


広さの重症度

全身の10%の広さ



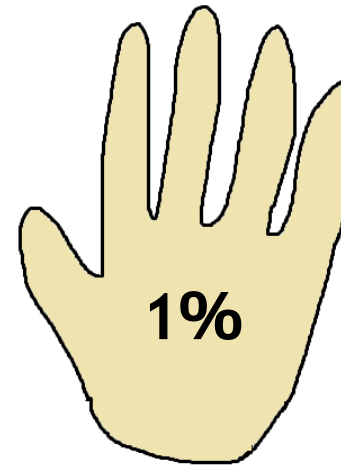
命の危険



すぐに救急車！

全身の10%とは

本人の手のひらの大きさを



1%として、手のひら10枚分

受診のタイミング

- ②皮膚が赤く腫れて水ぶくれができている場合
強い痛みが治まらない場合



受診のタイミング

③皮膚の色が白、もしくは黒色となっており、
痛みを感じない場合



まとめ

自己判断で消毒薬を使用すると、今後の治療に支障が出る場合があります。
やけどをしたら患部を冷やして早めに
医療機関の受診をしましょう！

清潔なガーゼやタオルで患部を覆い、
出来るだけ綺麗な状態で、速やかに
皮膚科・形成外科へ受診を！

